

今週（1月20日から1月24日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、先週末からの調達ニーズの強さが継続し、O/N物・ターム物ともに高い水準での取引が中心となった。日銀当座預金残高は、大きな過不足要因は無く、397兆円前後で推移した。無担保コールO/N物は、地銀・証券業態からの▲0.02～▲0.005%の調達が相場を牽引し、大手行・信託業態からの▲0.07～▲0.04%近辺の調達がそれを下支える展開が続いた。23日には試し取りによる+0.001%のまとまった出合いも見られた。無担保コールO/N物加重平均レートは、週を通して▲0.01%台後半での推移となった。ターム物は、1～2W物で▲0.01～▲0.005%のビッドが見られたものの、オファーサイドの参加者が少なく出合い辛い状況が続いた。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは24日に2W物・15,000億円がオファーされ、6,998億円（期落ち額5,878億円）と札割れとなった。

●レポ市場

今週のO/N GCは、投資家の資金調達ニーズによってレート水準が大きく変わり、ボラタイルな動きをとる日が多くみられた。週初20日は投資家のオファーニーズがみられたことでレートは安定的に推移し、▲0.06～▲0.05%の出合い。21日は投資家のオファーニーズが減退したことで▲0.06%の出合いから▲0.09%までレートを下げた。22日は前日と逆の展開となり、投資家のオファーニーズが入ったことで▲0.09%の出合いからレートを上げ始めて▲0.06%程度まで出合った。23日・24日は▲0.08～▲0.06%程度となり、週を通して広めのレンジの動きとなった。

SCについては、ビッドが目立った銘柄は5y 137～141、10y 336～341、352～357、20y 169～171にビッドが多くみられた。

●短国市場

今週の短国市場は、オペのオファー額が2週連続で1兆円となったことで、需給の改善が見られ、3M物で▲0.130%、6M物で▲0.145%、1Y物で▲0.140%近辺で出合うなど、全般的に堅調なマーケットとなった。

22日に実施された短国買入オペは、市場予想額を上回る10,000億円がオファーされた。応札額が33,245億円と多く、引け値の低い特定の銘柄に売りが出たためか、平均落札利回較差+0.014%、按分落札利回較差+0.008%と、やや弱めの結果となった。

24日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.126～▲0.125%で出合う中、平均落札利回▲0.1222%、按分落札利回▲0.1162%と、落ち着いた結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットにおいては、▲0.125%出合いと堅調な推移となった。

●CP市場

今週のCP市場は、食料品、鉄鋼、卸売等の複数業態でまとまった額の調達が散見され、週間発行総額は6,600億円程度と償還額4,200億円程度を上回った。市場発行残高は、週初20日に22兆円を超え、23日には22兆3,900億円程度に到達するなど、リーマンショック後過去最高となった2019年12月の月中残高を更新しゆっくりと拡大している。発行レートについては、足許の市場残高の増加に伴い、マイナスレートで積極的にCPを購入する姿勢は後退し、全般的に上昇している。残高が多い銘柄等ではa-1格以上の優良銘柄でも浅いプラスレートの決着が散見された。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
1/20（月）	24,083.51	0.005	110.19	△ 0.018	△ 0.050	3,965,400
1/21（火）	23,864.56	△ 0.010	110.00	△ 0.018	△ 0.064	3,974,200
1/22（水）	24,031.35	△ 0.005	109.88	△ 0.018	△ 0.091	3,971,700
1/23（木）	23,795.44	△ 0.025	109.68	△ 0.018	△ 0.071	3,977,800
1/24（金）	23,827.18	△ 0.025	109.55	△ 0.016	△ 0.068	3,993,600

来週（1月27日から1月31日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
1/27 (月)					12月の米新築一戸建て販売件数
1/28 (火)	12月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50)	40Y 4,000億円 1/29発行			米FOMC(1日目) 11月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数 12月の米耐久財新規受注
1/29 (水)	1月の消費動向調査(内閣府 14:00) 決定会合における主な意見(1月20・21日分 8:50)	交付税借入 10,500億円 2/7借入			米FOMC(2日目) 1月の米CB消費者信頼感指数
1/30 (木)	時事通信社「金融懇話会」において雨宮副総裁講演	2Y 20,000億円 2/3発行			10-12月期の米GDP速報値 英中銀MPC結果発表
1/31 (金)	12月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 1月の都区部消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 12月の一般職業紹介状況(=有効求人倍率 厚生労働省 8:30) 12月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50) 12月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50) 12月の住宅着工統計(国土交通省 14:00)	TB3M 44,400億円 2/3発行	交付税借入 10,500億円 2/13借入		12月の米個人所得・消費支出 1月のシカゴPM景況感指数 1月のユーロ圏消費者物価指数速報値 10-12月期のユーロ圏GDP1次速報

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
1/27 (月)	800	13,100	13,900	全店共通 CP買入 国債補完	▲ 5,900 ▲ 600 200	7,000	700	14,600	社会保障費の支払い TB3M発行▲43400償還42700 流動性供給▲4000
1/28 (火)	1,000	0	1,000				0	1,000	交付税借入▲10500期日10500
1/29 (水)	1,000	▲ 7,000	▲ 6,000	社債買入		1,000	1,000	▲ 5,000	40Y発行▲4000
1/30 (木)	0	▲ 3,000	▲ 3,000				0	▲ 3,000	交付税借入▲10500期日10500
1/31 (金)	500	3,700	4,200	CP買入		2,500	2,500	6,700	
週 間 合 計	3,300	6,800	10,100	—	▲ 6,300	10,500	4,200	14,300	

1/27は日銀予想、1/28以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、資金調達ニーズは依然として強く、高い水準での出合いが続くと予想する。一方で、一部の先はビッドオフが早くなるなど、調達意欲がやや減退している兆しも見られており、徐々にレートが低下していく可能性もある。レボ市場は、GC T/Nは引き続きボラティルな動きが続き、出合いのレンジも広くなることが予想される。短国市場は、31日に3M物の入札が実施予定となっている。需給が改善に向かう中、オペのオフアー額を含めて市場動向が注目される。CP市場は、月末週に当たり、活況なマーケットになることが予想され、残高がどこまで伸びるかに注目が集まる。また、28日にはCP等買入オペが2,500億円で実施予定となっている。市場残高は高水準で推移しているものの、0%での保有ニーズは底堅く、高めのレートで売り急ぐ必要はあまりないと思われ、按分レートは引続き浅いマイナスで決着することが予想される。

主要なイベントとしては、海外では28～29日にFOMC、30日に英中銀MPC決定会合、10-12月期の米GDP速報値、31日に1月のユーロ圏CPI速報値、10-12月期のユーロ圏GDP1次速報などが予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入